

六田晴洋の

私たちの
ご近所さん

トガリ
ネズミ
ラウアー


VOL. 32 シシャモと鳥たち

先日、やまかんさんで
おいしいシシャモをいた
だきました。初冬は白糠
の川にシシャモが産卵の
ためにのぼってくる季節。
シシャモはサケのように
川で産まれ海で大きく育
つ魚ですが、私は白糠に
住むまでそんなことは知
りませんでした。せつか
く白糠にいるのだから、
生き物としてのシシャモ
を深く知りたい、撮影し
てみたいと思い、今年挑
戦することになりました。

「思い通りにいかなくても」

撮影の第一歩は、予定を空け
ておくこと。私は今年のシシャ
モの時期に予定が入らないよう、
さまざまなことを調整しながら
一年間生活してきました。これ
が案外難しく、時に薄情者の
レッテルを貼られるリスクを伴
います（笑）。そしていよいよ
その時期の到来。ところが：

川が濁って水中が見えません。
シシャモがいるのかどうかさえ
わからないほどです。9月の豪
雨で土砂が川に流れ込んだこと
が影響しているのでしょうか。
それでも微かな望みを胸に、毎
日川の透明度をチェックしに通
いました。しかしその苦労も虚
しく濁り続ける川。一年も待つ
たのに、まさかスタートライン
にさえ立てないとは。

ところが、その中で気付いた
ことがありました。いつ行っ
てもヤマセミがいるのです。時々、
タンチョウも来ます。そして、
その鳥たちが捕らえた魚を見る
と、なんとシシャモです。人間
には全く見えないのに、鳥たち
はいとも簡単そうにシシャモを
次々と捕まえるのです。しかも
シシャモだけを。ここには他の
魚もたくさんいるのに、明らか

に選んでいます。ヤマセ
ミやタンチョウは魚を丸
飲みするので味はわか
らないと勝手に思ってい
ましたが、人間とは違う味
の感じ方があるのでしょ
うか。
気付けば鳥たちの面白
さにすっかり引き込まれ
ていました。思い通り
にはいなくても、やっぱ
り自然って面白い。でも
来年こそ水中のシシャモ
を撮ります。



シシャモを捕らえたヤマセミ



朝日を浴びるタンチョウ

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスの
カメラマンやディレクターとして
野生動物や自然風景を撮影している。
<https://rokutaharuhiro.com>

